

2023 年 9 月 14 日

医療関係者 各位

東 和 薬 品 株 式 会 社
大阪府門真市新橋町 2 番 11 号

東和薬品、VIE STYLE、NTTデータ経営研究所は、ブレインテックで業務提携 ～認知症周辺症状を解決する DTx（デジタルセラピューティクス）の共同開発を開始～

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび弊社は、イヤホン型脳波計「VIE ZONE」とニューロテクノロジーAIを開発する VIE STYLE 株式会社（本社：神奈川県鎌倉市、代表取締役：今村 泰彦、以下「VIE STYLE（ヴィー スタイル）」と、株式会社NTTデータ経営研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山口 重樹 以下、NTTデータ経営研究所）とともに、ブレインテックを活用した認知症の周辺症状を解決する DTx（デジタルセラピューティクス）の共同開発を行うため業務提携いたしましたので、お知らせいたします。

今後 3 社は、分野を超えたパートナーシップで新しい価値を生み出しながらブレインテックの事業化を推進し、社会課題の解決および人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に寄与することを目指します。

謹白

記



【業務提携内容】

高齢人口の割合が増える現代社会において、加齢に伴う認知機能低下・認知症は、高齢者の健康を脅かす最大の脅威の一つと認識されています¹⁾。認知症そのものの根本的治療法が進展しない中、もう一つの課題が中核症状に付随して呈する「行動・心理症状“behavioral and psychological symptoms of dementia (BPSD)”」です。具体的には、易怒性（易刺激性）、焦燥・興奮、脱抑制、異常行動、妄想、幻覚、うつ、不安、多幸感、アパシー、夜間行動異常、食行動異常などです。

なお、現状、BPSD に対する根本的な治療薬はなく、厚労省の BPSD ガイドラインでも薬物療法は推奨されていないなど²⁾、効果的な非薬物療法の登場が切望されています。そうした課題解決に期待されるのが、ブレインテックと呼ばれる、脳神経科学の応用技術分野です。

【事業推進体制、および役割分担】

従来の医薬品事業に加え、より幅広いヘルスケアサービスの創出を目指す弊社と、イヤホン型脳波計デバイスを開発している VIE STYLE、さらに、ニューロテクノロジー分野の事業開発を専門に手掛け豊富な実績を持つ N T T データ経営研究所、3 社の共同研究開発プロジェクトとなります。

◆「イヤホン型脳波計」について

イヤホン型脳波計（In-Ear EEG）は、従来課題だった日常生活における脳波計測デバイスの煩雑性（装着するのが面倒、見た目が悪い等）の問題がなく、いつものようにイヤホンをつければ脳波を測れるという、近年注目を集めている技術です。

VIE STYLE が開発するイヤホン型脳波計「VIE ZONE（ヴィーゾーン）」は、イヤーチップが電極となり、耳（外耳道）から脳波を取得できるウェアラブルデバイスです（図 1）。



図1：イヤホン型脳波計「VIE ZONE」

- 1) Bishop, N. A., Lu, T. & Yankner, B. A. Neural mechanisms of ageing and cognitive decline. Nature 464, 529–535 (2010).
- 2) 厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室. 「かかりつけ医のための B P S D に対応する向精神薬使用ガイドライン（第 2 版）」. (2015)

以上